

スタッフインタビュー②

J. S

- ・ 建造物分野
- ・ 2017 年／新卒採用
- ・ 土木建築工学科建築コース 卒



被災をきっかけに飛び込んだ文化財修理の世界

入社のきっかけは平成 28 年に発生した熊本地震です。当時、私は熊本で建築や都市デザインを学ぶ学生でした。地震発生直後、私は文化財ドクターの方々に同行し、地元・熊本県宇城市の旧宿場町に点在する歴史的建造物の被災状況調査に参加しました。地域の宝物である文化財級の建物が失われていく現実を目の当たりにし、自身の無力さを感じながらも何かできることはないかと模索していました。地震から 1 年後、恩師を通じて、同じ熊本県にある国指定重要文化財・江藤家住宅の災害復旧工事の設計監理に携わる当社のことを知り、たまたま現場事務所の新しいメンバーを募集されていたことから、1 カ月の試用期間を経て現地採用という形で入社しました。

地域コミュニティに対する修理技術者の役割

文化財建造物は、その文化的・歴史的価値から、地域のまちづくりの拠点として整備されたり、学校教育における学びの場として位置付けられたりと、その保存や活用、教育連携に対する市民の関心は高まっています。私が関わった江藤家住宅では、地区の住人によるボランティア団体が地域全体でこの家を守っていきこうと活動されていました。その姿を見て、文化財建造物は地域の共有の財産であることを実感し、また文化財の修理に携わる私たちにも、地域に対して果たせる役割があると気づきました。修理現場の公開を通して、周辺に暮らす方々に地域への誇りと愛着を持ってもらえるようお手伝いすることが、重要な役割であると考えたのです。修理技術者の仕事内容とは直接関連がないように見えるかもしれませんが、修理後の文化財を守り伝えていくためには、文化財と地域の関係性が非常に重要です。建物に対する人々の思いや文化財的価値を次の世代に引き継ぐことができる仕事にはやりがいを感じています。



過去からの学びと未来への継承

江藤家住宅のような木造の伝統的建造物は、木材や土、石などの材料から、建具や畳、金具といった製作物まで、様々な要素で構成されています。それぞれの要素について現況や破損状況、痕跡などを調査し、次の段階である「設計」に反映させます。調査中、時には埃まみれになりながら作業することもあります。部材に残された改造の痕跡や墨書きを発見したり、それらをもとに考察したりする過程は面白味があり

ます。また、先人が築いた大切な文化遺産を後世に繋ぐ文化財修理において、様々な職人や専門家など多くの人の協力が不可欠です。私たち修理技術者はその過程に一貫して関わることができる非常に興味深い職業だと感じています。

所有者への思いやりと信頼関係の構築

文化財修理に関する専門知識と技術に加えて、文化財所有者に対する思いやりを大切にしたいと考えています。修理作業を行う際には、その物件に対する所有者の思いを理解し、その価値を尊重する姿勢が求められます。その上で、修理や保全のプロセスで所有者と密接にコミュニケーションを図り、修理方法や計画について共有し合うことで信頼関係を築くことが重要です。所有者の意向やニーズを適切に反映しながら、文化財の保存と継承を目指す共通の目標に向けて協力して取り組むことで、文化財の本質的な価値を守り、次世代に引き継ぐための修理作業を行うことができると考えています。

仕事と家庭を両立するための柔軟な働き方

私は妻と二人の子供と暮らしています。平日は集中して業務をこなし、休日は子育てや趣味に充実した時間を過ごすことができます。子どもが体調不良の際は、看病や世話に必要な時間を確保するために有給休暇や在宅勤務を活用しています。また、二人目が生まれた際は育児休業を取得しました。仕事の効率性とプライベートの充実を両立させることは重要だと考えており、柔軟な働き方やサポート制度を提供してくれる会社に感謝しています。



地元では獅子舞保存会に所属

未来の仲間へのメッセージ

熊本地震は私の人生に大きな影響を与えました。歴史的建造物の価値と保全の重要性を深く理解し、特に重要文化財である江藤家住宅の災害復旧に関わることで、この道に進む決断をしました。私たちは個々の経験や熱意を大切に、チームとして共に成長していくことを目指しています。もしあなたも文化財や歴史的建造物に興味を持ち、その保存や復旧に貢献したいと考えているのであれば、ぜひご応募ください。文化財の保護と継承を通じて所有者や地域社会の誇りに関わる事ができる仕事があります。